

「日本の戯曲研修セミナー」@オンライン2024

戯曲を声に出して、みんなでディスカッションしてみましょう!

# 飯沢匡「もう一人のヒト」

IZAWA TADASU



飯沢匡(いざわただす・1909~1994)

劇作家、作家、ジャーナリスト。朝日新聞社入社後、勤務の傍ら風刺喜劇を執筆。戦後はアサヒグラフ編集長として初めて原爆被害の実相を発表。1954年退社後は、文学座、劇団NLT、劇団民藝、青年劇場などの劇団に多くの劇作を提供、演出するとともに、NHKの「お母さんといっしょ」の中で「プーフー」など優れた児童向け人形劇を執筆制作。岸田演劇賞、読売文学賞、斎田喬戯曲賞、小野宮吉戯曲平和賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞、その他受賞多数。本名は伊澤紀(いざわただす)で、警視總監・貴族院議員・台湾総督を歴任した官僚政治家・伊澤多喜男の次男。『飯沢匡喜劇全集』全6巻(三一書房)、『武器としての笑い』(岩波新書)など著書多数。

社会派と呼ばれる演劇がある。飯沢匡は、その社会派であり、そして紛れもなく喜劇作家であったと言える。ジャーナリストであり、優れた児童向け人形劇の制作者であったこの作家は、70歳近くになっても代表作となる喜劇作品を発表し続けた。「笑いという有効な武器をとうの昔に捨てた—いや捨てさせられた国民が日本人なのではないか」『武器としての笑い』飯沢匡著(岩波新書)今、政治不信は極まり、エンターテインメントは過去に類がないほど多様化している。こんな時代に、「喜劇」はどんな意味を持つのか。セミナーでは、作者の稀有なプロフィールを辿り、傑作喜劇『もう一人のヒト』を声に出して読みながら、全体でディスカッションを行います。演劇は「笑い」と「社会」とどう向き合っているのか、考え、実践する一助になれば幸いです。参加者のみならず、見学の方も募集。オンラインでの実施であるから、全国、世界のさまざまな状況の中、芝居に取り組み、あるいは舞台を楽しんでいる多くの方の参加をお待ちしています。

(ナビゲーター 丸尾聡)

を読む!

# 戯曲

に関わる

すべての人

に開かれた

セミナーです

オンライン版

#もう一人のヒトを読む

2024

11/22(金) 18:00-20:00

11/29(金) 18:00-21:30

11/30(土) 16:00-20:00

12/01(日) 16:00-20:00

[会場] Zoom

ディスカッション参加者・見学者募集!

一般社団法人 日本演出者協会

